

くりはしせきしょばんしやしきあと

栗橋関所番士屋敷跡

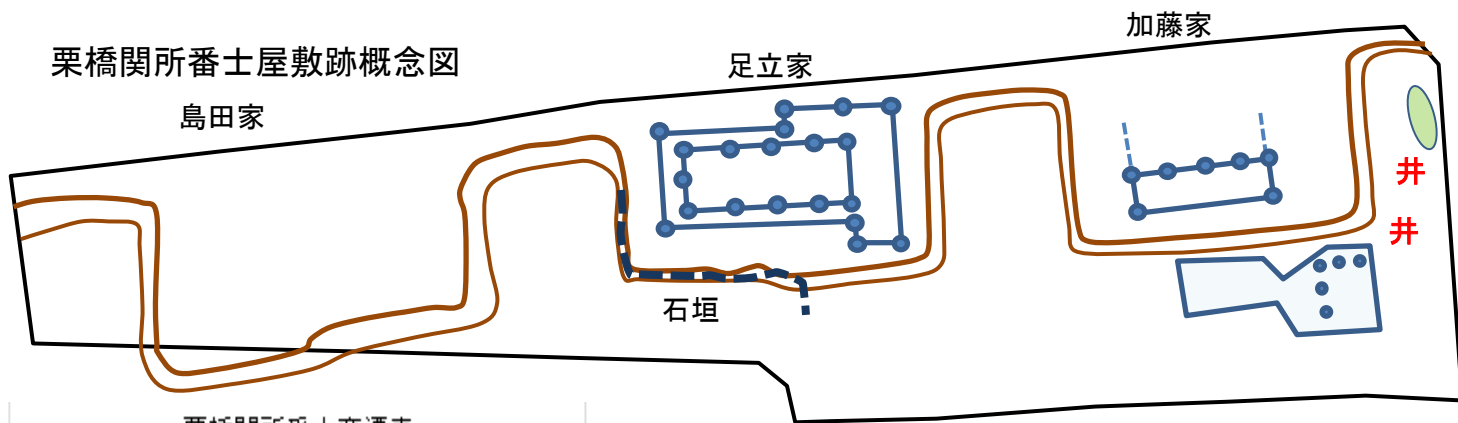
—洪水とともに生きる

栗橋地域は埼玉県北東部にあり、現在でも国道4号線が利根川を渡り東北地方に向かう交通の要衝の地です。

栗橋関所の正式名称は「房川渡し中田御関所」と言いますが、栗橋に関所が置かれたのは寛永元（1624）年で、この時には番士屋敷もつくられたと考えられます。以来、幕末まで約240年にわたって番士の住まいとして使われていました。その後も子孫が住んでいましたが、屋敷跡は住まいを建てた部分が高く土盛りされており、現在までその姿をよく残していました。文書類も残っており、その内容が発掘調査で検証できる貴重な遺跡です。

発掘調査では、足立家の建物跡をほぼ図面通りに検出したのをはじめ、土盛りの中から建物跡を発見し、番士屋敷跡の土盛りは何度かのかさ上げを繰り返して、現在の高さになったことがわかりました。

栗橋関所番士屋敷跡概念図



栗橋関所番士変遷表

寛永	元	1624	森	佐々木	落合	富田
明暦	元	1655	↓	神谷	↓	↓
寛文	5	1665	加藤(改姓)	↓	↓	↓
元禄	12	1699	↓	長山	↓	↓
寛政	10	1798	↓	↓	島田	↓
寛政	12	1800	↓	足立	↓	↓
天保	15	1844	↓	↓	↓	↓



建物跡(たてものあと)



土壌(どこう)



井戸跡(いどあ)



盛土推定線
(もりどすいていせ)

主催: 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催: 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
埼玉県教育委員会



足立家建物跡

足立家盛土の最上面で検出した建物跡です。この建物跡は明治17年に建てられたものですが、柱を乗せる礎石がよく残っており、当時の図面ともほぼ一致します。この下にも、同じような建物跡が発見されました。



第1号土壌

穴の中にたくさんの炭や焼けた土壁といっしょに陶磁器や瓦が捨てられていました。火事で焼けたものを捨てたのでしょうか。



井戸跡

コンクリートの外側に木枠のあるちょっと不思議な井戸跡です。もともとあった井戸枠の中に近代になってコンクリートの枠をつくって補強したのでしょうか。

栗橋関所番士屋敷跡関連年表

年号	西暦	主な出来事
寛永	元一六二四	この頃栗橋に関所ができる。
寛文	元一六六一	関所、老朽により再建する。
寛文	三一六六三	関所、洪水により修理する。
宝永	元一七〇四	関所、洪水により流される。
寛保	二一七四二	番士屋敷へ「水押」。 落合家流失。加藤家、長山家砂で埋まる。
寛延	二一七四九	関所、洪水により一部壊れる。
宝暦	七一七五七	洪水により加藤家床上一尺、長山家三尺、落合家鴨居下一尺、富田家鴨居まで浸水する。
天明	三一七八三	浅間山噴火する。大量の火山灰により利根川の川底上がる。
天明	六一七八六	関所、洪水により柵が流される。
寛政	三一七九一	栗橋周辺「海の如く」 高柳村内破堤し洪水となる。
寛政	五二七九三	中里村内破堤し洪水となる。
寛政	二一八〇〇	字三俣久八家より出火する。 加藤全兵衛宅内隠居所当時足立十右衛門仮宅など八軒類焼する。
文政	六一八二三	高柳・島川村境で破堤し洪水となる。
文政	七一八二四	中里村内破堤し、洪水となる。 床際まで浸水する。
天保	一一八四〇	高柳村内破堤し、床上二尺まで浸水する。
明治	二一八六九	明治政府により関所が廃止される。